体験講習会のアンケート結果【2025 年 9 月 22 日･金沢大学】

サブ課題C:地方自治体等のヒューマンリソースの戦略的活用

説明内容

説明内容（アンケート結果）

- 調査の概要
- 回答者の属性
- 受講前後の理解度の変化
- 活用意向と点検制度への意見
- 参加者の声（自由記述）
- まとめ

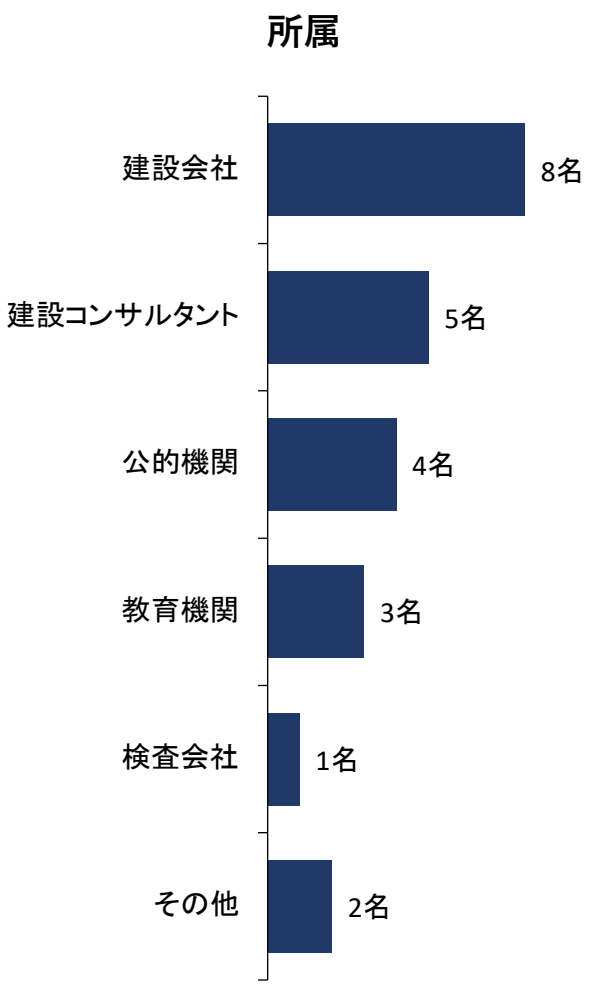
調査の概要

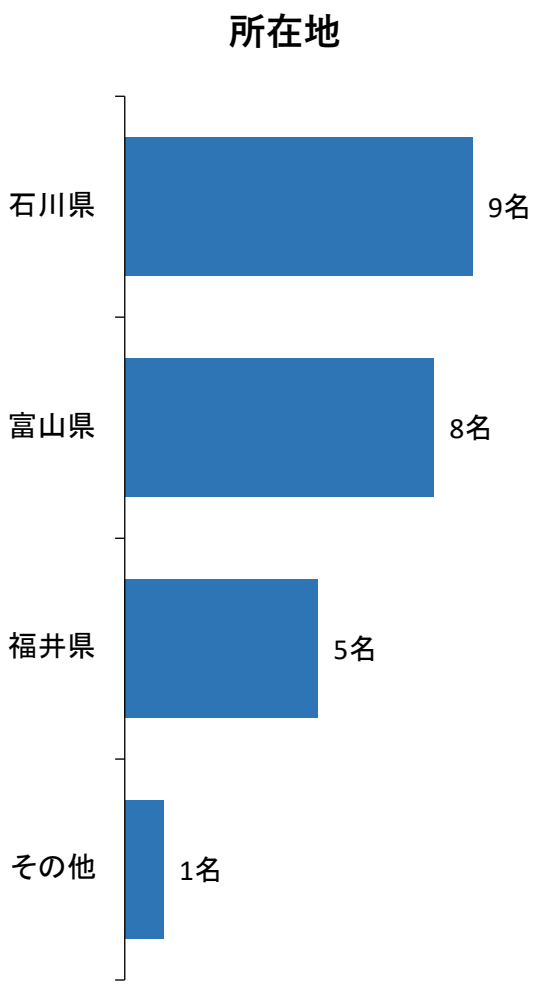
2025 年 9 月 22 日（金沢大学）RC 床版橋の破壊実験・体験講習会

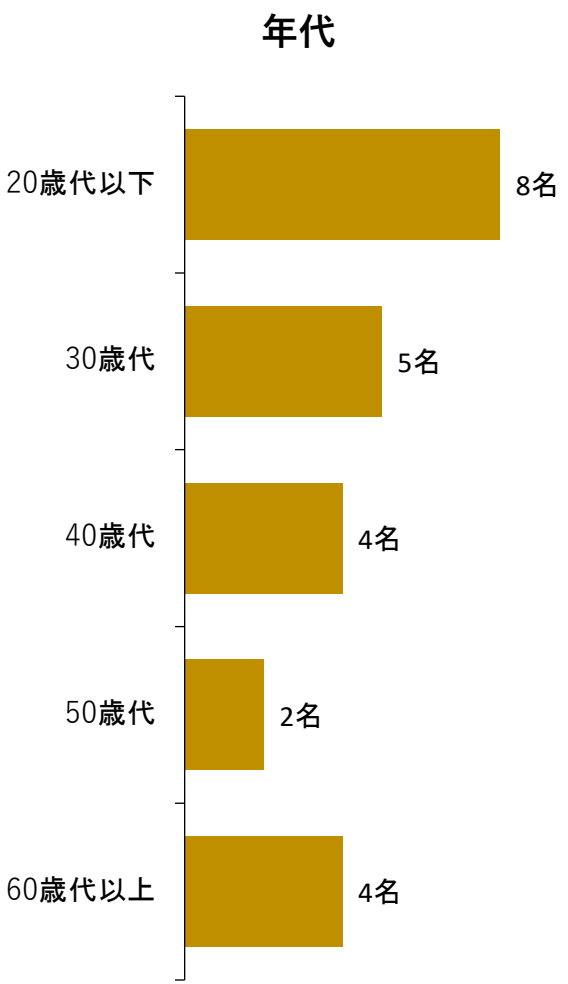
項目	内容
対象	体験講習会の参加者
方法	Web フォーム（Microsoft Forms）
有効回答数	23 名（テスト入力 1 件を除く）
主な設問	属性（所属・所在地・年代），参加動機， 受講前後の理解度（耐力評価法・載荷実験）， 実務への活用意向，点検制度への意見，自由記述

回答者の属性

北陸 3 県の官・産・学から参加．20 歳代以下が最多

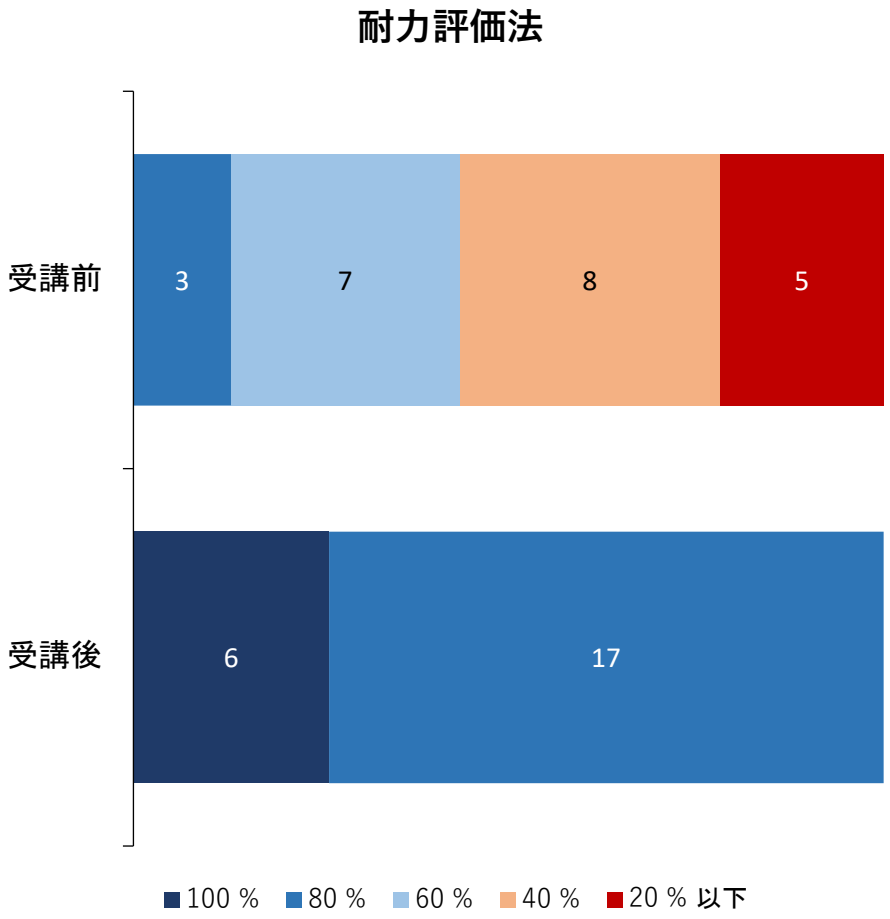


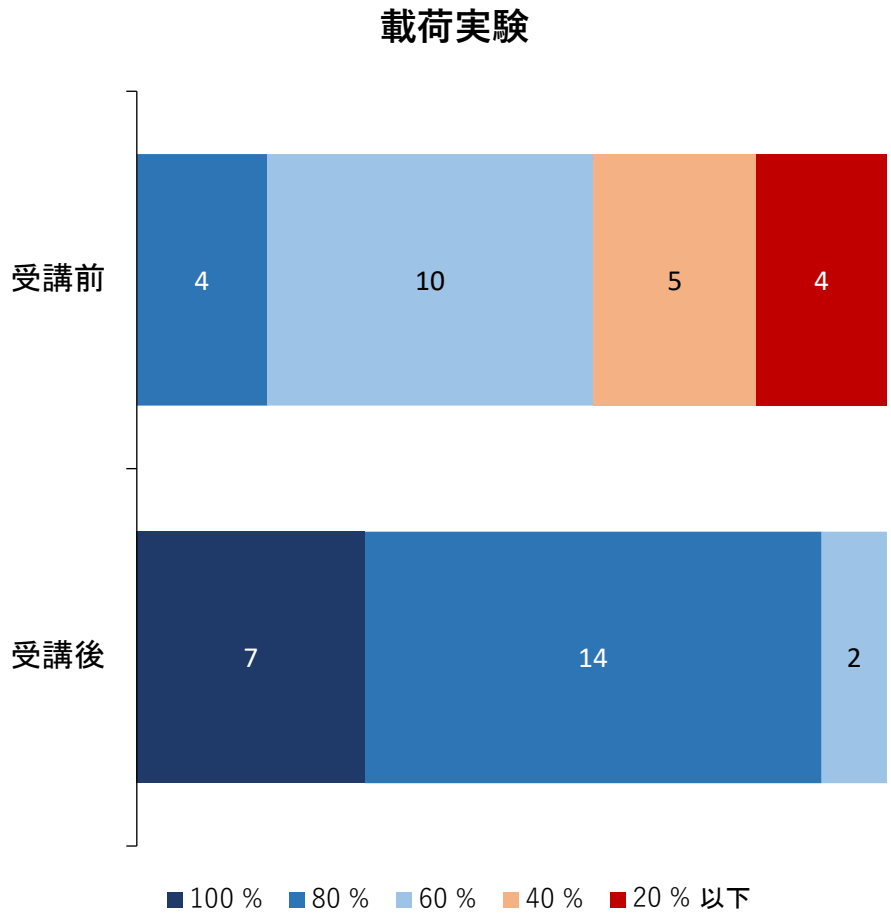




受講前後の理解度の変化

「80 % 以上理解」：耐力評価法 13 % → 100 %，載荷実験 17 % → 91 %



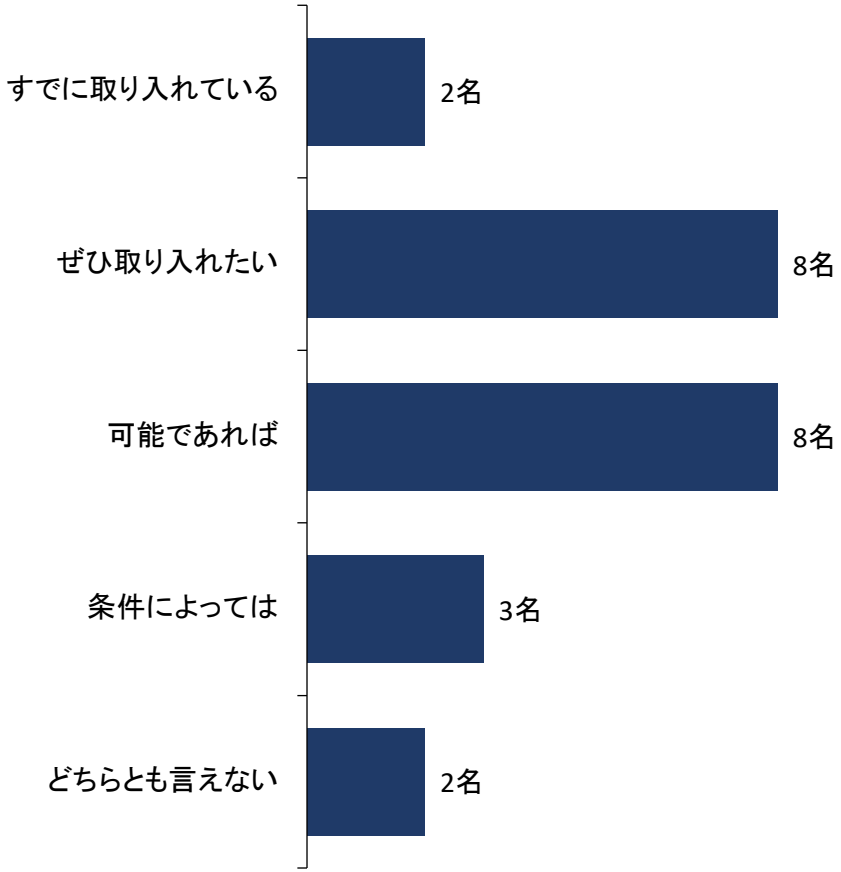


凡例：100 %＝十分に理解（知っていた），20 % 以下＝ほとんど知らなかった（N = 23）

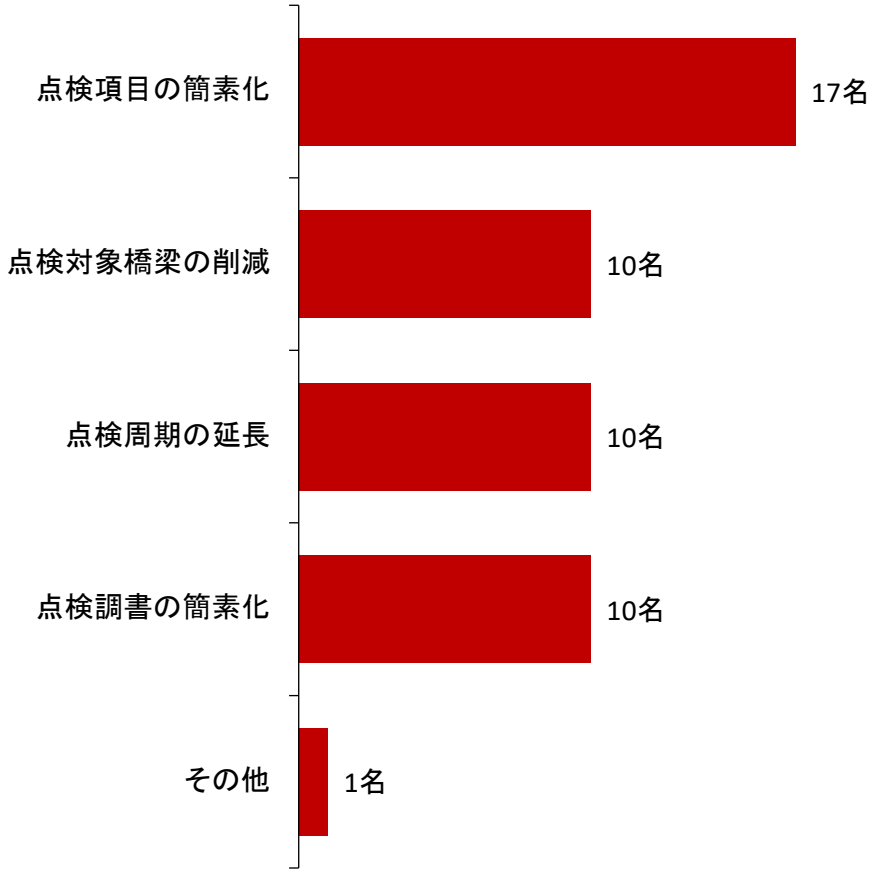
活用意向と点検制度への意見

約 8 割が「取り入れたい」．点検項目の簡素化を望む声が最多

安全性・耐荷性の視点を取り入れたいか



点検制度に必要な変更（複数回答）



「現行通りで良い」は 0 名（N = 23）

参加者の声（自由記述）

期待の声と，ツール化・実橋計測への要望

期待・効果

・簡単に誰でもわかる技術を知りたい

・マスターカーブの活用で
発注者との協議が円滑に

・定期点検に活用し
点検のコスト縮減に

・他の試験が不要になる場合もあり
効果的

・実大載荷試験の評価で
過大な補修が不要に

要望・提案

・劣化度・使用材料（鉄筋径
・SD295 など）を反映できること

・手軽に耐荷力を算出できる
Excel シート

・実橋に荷重をかけた
たわみ計測が有効

・衝撃載荷試験との組合せで精度向上

・実橋の損傷に近づけた
モデルでの実験

まとめ

・北陸 3 県の官・産・学から，**若手を中心**に幅広く参加

・「80 % 以上理解」：耐力評価法 **13 % → 100 %**,

載荷実験 **17 % → 91 %**

・**約 8 割**が安全性・耐荷性の視点を実務に取り入れたい

・点検制度は**点検項目の簡素化**を望む声が最多

→ 要望を踏まえ，**手軽に耐荷力を算出できるツール**を整備